

2年生から招待状が届いたよ！－生活「うさぎ組と遊ぼう」－

年中&2年生生活

ねらい

幼児 2年生へ親しみの気持ちをもったり、小学校のグラウンドで一緒に体を動かすことを楽しんだりする。

児童 幼児が楽しめる遊び方や接し方を考えながら、交流を進めようとする。
体育の授業で取り組んだことを見せ、小学校が楽しい場所だということを知らせる。

実践の概要

小学校からうさぎ組に招待状が届きました。招待状には2年生の名前と顔写真、好きな遊びが書いてあるカードも入っていたため、幼児は2年生にはどんな人がいて、どんな遊びが好きかを知ることができて安心し、楽しみにする様子がありました。

〇〇さんっていう名前なんだね。



遊具で遊ぶ時は、最初に2年生がタイヤ跳びや雲梯などの手本や使い方を教えてから、幼児が好きな遊具で遊ぶことを楽しめるようにしました。「氷鬼」では、体格差がある幼児と一緒に楽しむ方法を2年生が考えました。「速足(走らない)」というルールです。幼児も2年生にタッチすることができて喜ぶ様子がありました。

グラウンドでいっぱい遊びましょう。



実践のポイント

教師の援助

- ・担任間で学級の実態や交流内容が妥当かなどについて話し合ったうえで、2年生が主体的に交流を進められるよう支えた。

工夫した環境や教材など

- ・写真と名前を記したポスター(年中)やカード(2年生)を事前に交換し、見通しや期待がもてるようにした。



また遊ぼうね！



ココが良かった！

幼児

- ・グラウンドの遊具に挑戦したことや、2年生と触れ合いながら遊んだことで親近感をもつことができた。

児童

- ・自分よりも小さな子を可愛いと思う気持ちや、優しく接しようとする態度を培うことができた。
- ・自分たちが計画したことを幼児が喜んでくれたことで、やりきった充実感を味わうことができた。

育まれている10の姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

久しぶり！今日も一緒に遊ぼう！－総合「きりん組と交流しよう」－ 年長&4年総合

ねらい

幼児 4年生との再会を喜び、触れ合ったり、いろいろな遊びを共に楽しんだりする。

児童 幼児と共にペアやグループで楽しめる遊びを計画し、幼児が楽しめるように会を進める。

実践の概要

総合的な学習の時間における3回目の交流場で、交流の企画・運営を児童が自ら行う学習活動となっています。この日は幼児・児童が久しぶりに再会する日でした。楽しい時間を過ごせるように児童が考えたのは、手遊びと鬼ごっこでした。

手遊びは幼児にも親しみのあるものですが、「手つなぎ鬼」は初めて行うものでした。そこで4年生がルールを言葉や動きで教えながら、幼児と一緒に逃げたり鬼になったりしたことで、年長児が安心して取り組み、ルールを理解して楽しむことができました。



鬼は手をつなぐんだよ！

実践のポイント

工夫した環境や教材など

- ・ 幼児3名小学生4名のグループに分け、年間を通して同じメンバーで活動し、親しみをもてるようにした。
- ・ 幼児・小学生共にグループ名と名前が分かるように名札を準備した。



ココが良かった！

幼児

- ・ 幼児が4年生に甘えたり頼りにしたりする様子から、回を重ねるごとに信頼感や安心感のある関わりが積み重なった。
- ・ 4年生との遊びに刺激を受け、翌日から幼稚園で再現するなど、遊びへの意欲が高まった。

児童

- ・ これまでの学習から、児童から話し掛けることで、幼児の反応が良いことに気付き、自ら積極的に関わろうとする姿につながった。
- ・ 幼児でもできることが多くあることや「話が聞けるようになった！」など、幼児が成長している姿を捉えていた。



全部楽しかったです。

優しくしてくれてうれしかったです。

育まれている10の姿

健康な
心と体

協同性

社会生活
との
関わり

思考力の
芽生え

言葉による
伝え合い

意図的に…柔軟に…地域のつながりを生かして広がる学び — 年長児の遊びと2年生活「えがおのひみつたんけんたい」より —

年長&2年生活

ねらい

幼児 友達と考えを出し合いながら目的をもって遊ぶことを楽しむ。

児童 幼稚園の先生や幼児と直接関わった経験から、地域を支える人材としての幼稚園教諭のことについてもっと知りたいという学習への期待につなげる。

実践の概要

連携している小学校の2年生が、「まちたんけん」の途中に幼稚園の前を通りかかりました。それに気付いた年長組担任は、すぐに幼児に知らせ、園庭に出て2年生に声をかけました。修了児もいたため、子ども同士でも「久しぶり!」「どこ行っていたの?」などと出合いを喜び、関わる様子がありました。その後、幼稚園と小学校でそれぞれの学びが広がっていきました。

幼稚園 小学生が探検したり、見た場所を地図に書きこんだりしている様子に関心をもった幼児は「自分たちもやってみたい」と教師に伝えました。教師は、地域の環境への興味や遊びのヒントにもつながると考え、その思いを実現しようと柔軟に保育計画の修正をしました。後日「まちたんけんごっこ」と称して幼稚園の周りを歩きながら、幼児が見付けた場所を地図に書き込んでいくことを楽しみました。

小学校 幼稚園の近くを通ったのは、生活科「えがおのひみつたんけんたい」で自分たちの生活を支えている人としての幼稚園教諭に興味をもってほしいと願ったからです。日頃から連携している幼稚園なので、きっと柔軟に関わっていただけるだろうと思いました。児童から「また幼稚園に行きたい」という声があがったので、その後の学習につなげました。

あそこにお店があるよ！
先生、地図に書いて！



幼稚園の先生の仕事について教えてください。

実践のポイント

- ・ 交流の機会を逃さず、幼小それぞれの教師が積極的に関わり、幼児・児童が親しみを感じられるようにした。
- ・ 幼児・児童が自ら「やってみたい」と感じたことを、学習活動や遊びにつなげた。



ココが良かった!

幼児

- ・ 小学校の学習を直接見て興味や憧れの気持ちを持ち、それが遊びへの意欲となった。小学生と同じことができた喜びを感じ、自信や小学校への期待につながった。

児童

- ・ 地域の幼稚園という環境に直接関わることで、幼稚園教諭という存在に気付き、その後の学習活動に意欲をもって取り組むきっかけになった。

教師

- ・ 即時的な関わりに柔軟に対応し、子どもの学びにつながる連携となった。育てたい子どもの姿を園と学校が継続して共有してきた意義を再確認した。

育まれている10の姿

健康な心と体

協同性

思考力の芽生え

社会生活との関わり

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

学校探検に行ってみよう！－生活「もうすぐ2年生」

年長&1年生生活

ねらい

幼児 就学に向けて期待をもつ。

小学校には幼稚園と同じような教室や物があることを知り、安心する。

児童 新1年生が入学したらどのようなことをしたいかを考えたりイメージをもったりする。

実践の概要

事前に電話で教師間の打合せを実施し、幼児の就学への安心感や期待につなげることを考え、園と似ている場所(体育館、トイレ等)と、興味をもてそうな場所(1年生の教室、音楽室等)を探検することとしました。

少し緊張気味の幼児でしたが、体育館を走り、気持ちをほぐす活動を取り入れてから探検に出発しました。探検の中で校長先生に出会ったり、幼稚園にはない設備などを目にし、感じたことを友達と伝え合う姿がありました。探検後、1年生から「学校の楽しいところ」や「入学を待っているよ」という気持ちを伝えられ、1年生になることを一層楽しみにする姿につながったと感じます。

楽しかった経験は、早速「学校ごっこ」につながりました。身近な道具や素材でランドセルやノートを作ります。遊ぶ中で小学校に対する疑問が出てきました。そこで、幼児からの質問を取りまとめ、1年生に送ったところ、イラスト付きの返事が届きました。



こくごのべんきょうをはじめます。

実践のポイント

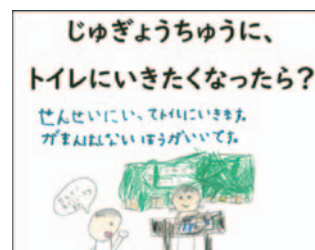
教師の援助

幼児 どの小学校に行っても自分のことを気にかけてくれる先生がいることや、同じような教室があることを感じ、安心できるよう意識して言葉掛けをした。

児童 自分たちの思いや小学校のことなどを幼児に分かりやすく伝える方法について、グループで話し合い、自分たちなりの考えを表現できるようにした。

工夫した環境や教材など

直接体験することを大切にしたいと考え、外靴の置き場の指示や約束事等を小学校の先生から直接教えてもらうようにした。



なるほど…わかったよ。



ココが良かった!

幼児

・実際に自分の目で確かめたり、疑問に答えてもらったりしたことで、小学校が「知っている場所」になり、安心や期待につながった。また、先生から「どの学校も同じだよ」と言われ、自分が入学する別の小学校にも期待や見通しをもつことができた。

児童

・幼児と関わりをもったことで、今後どのような2年生になりたいかなど具体的にイメージをもち、2年生に進級する心構えができた。

育まれている10の姿

自立心

協同性

道徳性・
規範意識の
芽生え社会生活
との
関わり数量や図形・
標識や文字
などへの
関心・感覚言葉による
伝え合い

幼稚園と小学校の合同研修をしよう

教職員

ねらい

- ・ 小学校と幼稚園の教育を見学し合い、育ちや学び方の違い及び共通点やつながりなど、相互理解を図る。

実践の概要

連携している幼稚園と小学校で、互いの教育を理解するための研修を行っています。幼稚園教諭は1学期に1年生の生活科の授業を見学し、小学校教諭は2学期に保育を見学します。

毎年12月には合同研修日を設定し、幼小のほぼ全職員が参加します。幼児が遊んでいる場面の動画を視聴し、幼児教育と小学校教育の共通点や違いについて話し合いました。

－片付けの場面－

幼稚園は子どもが自分ですべきことに気付き、行動できるよう教師はそばで見守り、心が動く言葉を掛けるタイミングを計っているのですね。

小学校では、今は片付けても次にまたできるという保障をして、その時すべきことを明確に促すことが多いかと感じます。

－ルールのある遊び－

子ども同士がコミュニケーションを取りながら、遊びが成立するためにどうすると良いかを考えて遊ぶところは共通ですね。

実践のポイント

- ・ 年度当初に交流や研修について話し合ったり、内容を確認したりして計画する。
- ・ 小学校教諭が幼稚園を見学する時は、園長や主任がその日の遊びや幼児の育ちなどを具体的に説明すると良い。
- ・ 見学では見切れない場面などは動画を活用するなど工夫が考えられる。
- ・ 遊びや学習の場面を見て、互いの視点から育ちや大切にしたい経験を話すと、互いの教育のつながりが見える。



子どもの言葉に耳を傾けることは共通の援助ですね。

特別支援教育の考え方と似ているところがありますね。



ココが良かった!

幼児期の学びの話から、小学校の教育にも共通する環境の構成や教師の援助などについて考える機会となった。

- ・ 子どもが試してみたいと思ったことを認め、その過程を価値付けることで「もっと」という気持ちが高まり、深い学びにつながる。やりたいことが叶う場があるからこそ、自主性の芽が生まれ、生まれた芽が育つのではないかな。
- ・ 子どもの身の回りにある全てが教材であり、園や学校で起こること全てに学びがある。
- ・ 園生活において遊びや活動の振り返りをする場面があることが分かった。小学校の学習でも行っているが、一人一人の中に遊びの価値や学びが落とし込まれたり、全体で共有したりすることができる大切な時間である。
- ・ 幼稚園生活の全てを通して、学習に向かう土台となる力を蓄えていると感じる。